

〔本草綱目啓蒙^{二十}〕蔬菜絲瓜 へチマ ナガウリ 薩州 トウリ信州略 ○
へチマノ水ハ蔓ノ本地ヨリ一二尺ニ切り、瓶中ニ插ミ入置バ、多ク水出、甚清白ナリ、俗ニ美人水ト云、

〔甲子夜話^七〕油ト謂モノモ、以前ハ硬キ棒油ト云計ニテ伽羅ノ油、クコノ油、スキ油、ギン出ト云類ハ、皆予浦清ガ幼少ノトキハ無リシ、

〔倭名類聚抄^{十四}〕澤容飾具 釋名云、人髮恒枯悴、以此令濡澤也、俗用脂縣二字、阿布良和太

〔箋注倭名類聚抄^{十六}〕澤容飾具 急就篇注、膏澤者、雜聚取衆芳、以膏煎之、乃用塗髮使潤澤也、即此物、

〔類聚名義抄^五〕澤音宅 アアラ和々

〔伊呂波字類抄^安〕澤粉、人髮恒枯悴、以此令濡澤也、 脂綿同アアラ 俗用之

〔歷世女裝考^四〕水油の古名

今も市中に男の髮結といふ者、壺めく物に縣をいれ、水油をひたしてつかふ、此千年以前にありける澤なり、

〔雅亮裝束抄^二〕みづらをゆふこと

まづときぐしにて、ちごのかみをときまはして、ひらかうがいにて、わけめのすぢよりおなじ頂也をわけくだして、まづ右のかみをかみねりしてゆひて、左のかみをよくけづりて、あぶらわたつけ、なでなどして、もとゞりをとるやうにけづりよせて、略 下

〔殿曆〕康和五年十二月九日甲寅、今日威徳殿上、 中結髮略 註 髮具ハ打亂筥ニ敷檀紙置也、付髮、紫

筋、油、壺、油、綿を入、 ヲカニヨリタル三

〔今物語〕待賢門院の堀川、上西門院の兵衛をと、いなりけり、夜ふかくなるまでさうしをみけるに、ともし火のつきたりけるに、あぶらわたをさしたりければ、よにかうばしくにほひけるを堀